

リハビリテーション室 設備紹介〈作業療法編〉

作業療法では、筋力低下や運動制限などの運動障害はもちろん、高次脳機能障害や精神疾患などの障害も対象としています。患者さんそれぞれの状態を明確に把握するために、各種検査機器を用いて障害を判別し、患者さん一人ひとりの状態に合わせてリハビリ内容を立案し実施しています。

当院では患者さん一人ひとりが住みなれた環境へと退院し、そこでそれぞれが質の高い生活が送れるよう、在宅生活にできる限り近い環境下でリハビリができるよう体制を整えています。



床からの立ち上がりや布団での生活が必要な方は、環境に合わせて動作練習を行います



家事動作を模擬的に行い、必要性に応じて実際に調理訓練を行うこともできます。



様々な検査機器を用いて状態を把握し、患者さんの状態把握に努めています。
検査結果は多職種で共有し、チーム全体で質の高い退院支援を行えるよう働きかけています。



後遺症が残る疾患や運動制限がある状態でも、自分で食事や着替えができるように、自助具という様々な道具を適切に選択し、自立した生活の獲得を図っています。



病棟で実際に使用している浴室と同様のものがリハビリ室内にも設置してあります。

自宅で安全に入浴ができるよう、実際の場面を模擬して動作練習を行います。

また自宅浴室に手すりや福祉用具の導入が必要な方に対しては、この場で実際に使いながら必要備品や使用方法などを検討します。

「車椅子ボードトレーナー」といって、簡単に言うと「もぐらたたきゲーム」です。目と手の協調性や上肢の可動域改善、敏捷性の改善や全身運動を目的とし、車椅子に座ったままでも運動可能です。小さいお子さんや認知症などで意欲の低下した患者さんに有料的で、成績が得点で出るので皆さん夢中になって取り組んでいます。

